

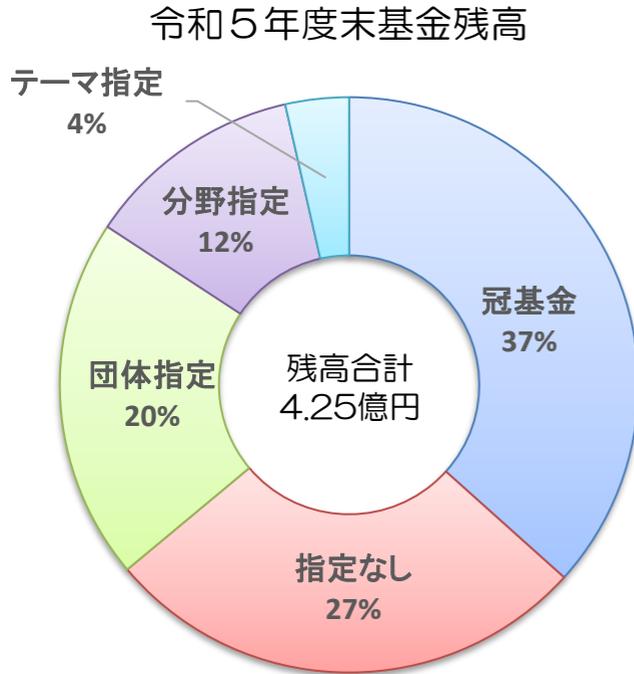
課題

- 冠基金の応募に偏りがあり、交付相当の点数であっても、助成金が減額または不交付となることがある
- 冠基金が計画的に使われておらず、十分に助成できていない

見直し案

- 募集方法を見直し、活用を促進する
- 活用計画を随時更新し、計画的・効果的に助成を行う。

寄付と助成の状況



- 冠基金数はR5年度末時点で35。
- R5年度の寄付額は13,810千円、助成額は21,073千円。残高は1.5億円超。

設置条件と設置期間について

寄附者	金額	標準設置期間
① 事業者（団体）	100万円以上	3年間
② 個人	500万円以上	5年間
③ 事業者（団体） ※複数者からの寄附を取りまとめ	100万円以上	3年間

- ①～③の場合に寄附者の希望に基づき、冠基金を設置することができる。
- 設置時に、冠基金名称や助成先の指定、活用方法について協議を行う。

助成先の指定について

助成先の指定（要綱第4条）

- 分野またはテーマ（複数指定も可）
分野、テーマに登録団体（団体指定）を組み合わせ
- 既存のテーマのほか、寄附者の意向を尊重して任意のテーマを指定することができる。

- 複数の分野を指定：4つ（約11%）
- 任意のテーマを指定：5つ（約14%）

募集方法について

- 申請団体は、分野または冠基金を選んで応募する。
- 申請団体にとって使い勝手のよい（募集金額が多い、複数分野を指定している等）冠基金に応募が集中してしまう。

廃止条件について

廃止（要綱第7条）

- 設置期間の満了
- 寄附者の希望があった場合
- 寄附者の同意を得た場合
- 残額が25万円未満となり、助成先を指定できない場合
- その他市長が必要と認めた場合

- これまでに廃止した冠基金は7つ。全て残額が少額であることが理由となっている（うち2件は寄附者同意と併せて）。

1 募集方法の見直しについて

現行	見直し案
<ul style="list-style-type: none"> 申請団体は、分野または冠基金を選んで応募する。 	<ul style="list-style-type: none"> 申請団体は、分野を選んで応募する。 審査により助成金の交付対象となった団体について、事務局が事業内容に応じた冠基金を指定する。

一助成	100万円	10～100万円
冠基金による助成	(765万円)	-
アライヤス基金	100万円	10～100万円
さくらマネジメントグループ基金	10万円	10万円
「安田・三善」まちづくり応援基金	50万円	10～50万円
北電力設備工事(株)60周年記念 まちづくり基金	20万円	10～20万円
北ガス 札幌市を元気に！まちづくり応援基金	15万円	10～15万円
さくら佐藤建設株式会社 夢 みんなのまちづくり応援基金	50万円	10～50万円
あおぞら銀行札幌支店60周年記念まちづくり応援基金	50万円	10～50万円
あいおいニッセイ同和損保環境基金	50万円	10～50万円
工藤精一まるとま動物園応援基金(※)	100万円	10～100万円
小金湯さくらの森支援基金(※)	100万円	10～100万円
北海道自転車産業協会まちづくり基金(※)	100万円	10～100万円
オークまちづくり元気基金(※)	100万円	10～100万円
札幌クリーニング協同組合環境美化基金(※)	20万円	10～20万円

分野
保健、医療、福祉の増進
まちづくりの推進
文化・スポーツ・観光・経済等の振興
子どもの健全育成

- 応募の偏りにより、助成金が減額または不交付となるケースをなくし、より良い事業が助成を受けられるようにする。
- 冠基金の活用計画や申請団体の事業内容に応じて、事務局が適切な冠基金を指定することで、冠基金全体の活用が進む。
- 応募時の申請団体の負担を軽減することができる。

2 冠基金の活用計画の更新について

現行	見直し案
<ul style="list-style-type: none"> 設置時に作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 追加寄附や募集の際に随時更新する。

- 活用計画を随時更新して寄附者と共有。「設置期間」「活用金額」を明確にして、計画的・効果的に助成を行う。